

使いにくいインタフェースほど使われにくいのか

1240481 中野卓代

指導教員 林良平

研究背景

Web 上の入力フォームは、予約や申請などのあらゆる手続きで幅広く利用されている。サービス利用者が操作に戸惑うことなく、直感的に入力するためには、画面のレイアウトやボタンの配置等のユーザインタフェース(UI: User Interface) が適切に実装されている必要がある。しかし、実際には不親切な実装でユーザの入力ミスや誤操作を招くシステムも存在する。

中村はこのような UI を BADUI(バッドユーアイ) と呼称し、9 カテゴリに分類したⁱ。

これまでの研究では、UI における課題解決方法やデザイン原則を提案することに焦点が当てられてきた。しかし、欠陥のある UI をカテゴリ化した上で実際にどのカテゴリに当てはまる UI がユーザに使われにくいかを検証する実験は行われていない。

研究目的

本研究は、中村(前掲)の提唱する BADUI の典型例 9 カテゴリを用いて、BADUI を施した Web 入力フォームは BADUI を含まない Web 入力フォームよりも利用が避けられる傾向があるかを検証する。

研究方法

9 カテゴリの BADUI を施した Web 入力フォームと、BADUI を含まない Web 入力フォーム(ベースライン)を作成し、被験者にそれぞれのフォームで入力させる実験を行った。各 Web サイトを選択したか否かを目的変数としてロジスティック回帰分析を行い、選択されやすさの差を検討した。

分析結果

BADUI を施した Web 入力フォームは、BADUI を含まない Web 入力フォームと比較して選ばれやすさに違いがあるとは言えない結果であった。

考察・結論

入力インタフェースの使いにくさは使われやすさに影響するとは言えないと結論された。一方で、実験デザインの不備も明らかになった。BADUI に直面した後に実験を中止する被験者が多発したことから、欠落バイアスを生じさせた可能性が伺える。この実験デザインの不備が BADUI による影響を正確に測定できない結果を招いたことは否定できない。

ⁱ 中村聡史(2015)『失敗から学ぶユーザインタフェース』, 株式会社技術評論社